

5冊目



『警官の血』上・下巻
作：佐々木謙
発行：新潮社

（あらすじ）
昭和23年、上野署の巡査となった清二。管内で発生した2件の殺人事件に疑念を抱いた清二が不審な転落死を遂げた。父の志を胸に同じ警察官の道を選んだ息子の民雄も凶弾に倒れ殉職。父と祖父をめぐる謎は、刑事となった孫の和也に委ねられる…

今回紹介した本は、町公民館内の図書室に置いてあります。リクエストにもお応えしますので、お気軽にご利用ください。
■多古町公民館図書室
☎79-3406
開館時間：午前8時30分～午後5時
3月の休館日：20日(木)

幅広い世代の方々に読んでいただけたら一冊を紹介したいと思います。
昨年の直木賞にもノミネートされたこの本は、父から子、孫へと警察官を継承した親子三代の話です。普段から警察もや裁判ものを読むことが多く、この本もタイトルに引かれ、公民館の図書室で借りました。読みやすい文章で物語にずんわりと入ることができ、どんな話に引き込まれ、気付いたら朝の四時近くになってしまったことも…。上下巻を一気に読み切ってしまったという感じでした。
戦後の復興に沸く東京の姿、そして現代へと連なる大きな歴史の中で、二つの未解決殺人事件と父の死の謎を、息子が真相追求し、孫が解明するに至るまで、



本植人：畠澤美枝子さん(南台)

大きな時間の中で描いたミステリー。一方で警察官それぞれの個の物語でもあり、時代の闇や警察組織の暗い部分にも触れ腐った組織の中で正義感を貫くこととする少数の闘う者たちの姿が描かれています。ラストは、ここに至るまでの道のりに比例するだけの重みがあります。
学生時代には、あまり本を読まなかった私ですが、働き始めて同じ職場の人が読んでいた「平家物語」や「徳川家康」などに刺激を受け、すっかり読書にはまりました。今は仕事の昼休みや就寝前が私の読書タイム。最近は専ら図書室で借りることが多く、二週間に二、三冊のペースで読んでいます。活字がないと寂しく感じるので、中毒みたいなものです。



私の一冊
『警官の血』上・下巻



江戸時代の区画割が残っていた水田 [昭和31年5月頃]

寛文年間(1661～72年)に多古藩家老・服部与五左衛門の肝いりで行われた開拓以降、そのままの区画割が残っていた柏熊の水田。その景色を当時高校1年生だった私が、手持ちのカメラで分割*して撮りました。集落のすぐ下は字名を“居下割”といい、水田脇には各戸ごとに清水の湧く池があって、種もみを発芽させる種井として使っていました。また、栗山川本流へと通じる舟運のための掘割(水路)が、集落近く100メートルほどまで数本伸び、そこには魚や小さなエビの姿も一。写真左上に白く光るのは栗山川の旧河川跡。三つ並ぶ小黒点はハンノキの木立で、その先に架かっていた舟のくぐれる“高橋”を渡ると、右手に見える小三倉集落へ。木造の初代“水神橋”もうっすらと写っていますが、この付近には天然ガスが噴出し、マッチを擦って投げ入れると一瞬「ポーッ」と燃え上がったものです。昭和30年代中ごろには、帝国石油がボーリングに成功し、大きく報道されたこともありました。

この田園風景も、昭和33年から35年にかけて行われた耕地整理で、大きく変貌を遂げることに一。区画割を変え、新しく道路などを造成した工事は、専ら人力で行われました。道板を敷いて、一輪車による土砂運搬の人海戦術です。高校を卒業し、農家を継いだばかりの私にとって、その作業が最初の仕事となりました。

*多田さんをお持ちの写真は、2枚に分かれています。多田さんと相談し、水田の広がりを目で見ていただけるようコンピュータの画像処理で接合しました。

※このコーナーではみなさんの思い出の写真を募集しています。応募先☎76-2611 広報たこ

思い出写真館
(その37)



多田 總雄さん
67歳(柏熊)

使用カメラは、歳の近い叔父と共同で購入した二眼レフ“ミノルタコード”。好奇心旺盛な私は、その愛機で、さまざまな記録を残していました。

追跡レポート! ———— この職業・この人たちの24時間



病院前救護の専門家
救急救命士の一日

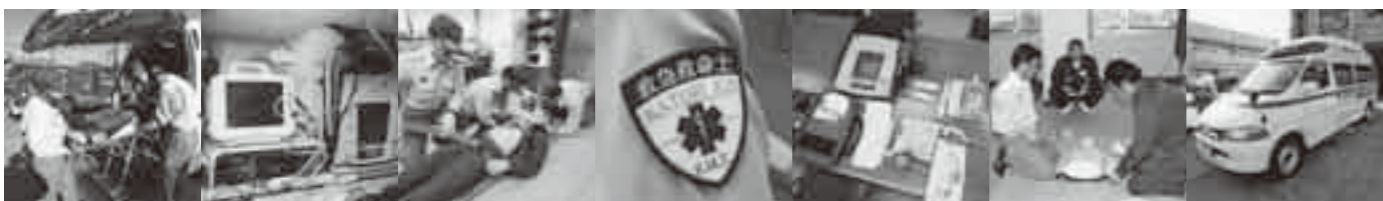
紹介者：宇井 章さん(右・香取市) 鎌形 敏さん(左・香取市)

私たちは消防多古分署で、救急隊の一員として働いています。24時間勤務の2交代制で、午前8時30分から勤務し、申し送りの上、翌朝8時30分に次の隊と交代します。

急病人や交通事故での外傷者など、救急隊は出場要請があれば救急車で現場へ急行一。呼吸や脈拍などの症状を観察し、重症度・緊急度を判断、応急処置および病院選定に対処します。そして、受け入れ可能な病院に搬送し、患者情報や処置状況などを医師に報告。患者さんを受け渡し、医師の所見とサインをいただいたら迅速に分署へ戻り、報告書を作成します。出場は年々増加傾向で、多古分署では昨年1年間で575件ありました。また、日ごろから、機械器具の点検やさまざまなケースの患者さんを想定した訓練、医学・技術の勉強会を行い、出場現場で円滑に活動できるよう努めています。

救急隊は3人1組。そのうち1人が、私たち救急救命士の資格を持つ隊員です。組合に19名いる救急救命士は搬送先の病院に着くまで、心肺停止状態の患者さんに対し、特定行為指示を要請して、了承が得られた後に医療行為が行えます。それは器具を使った気道確保や静脈路確保、薬剤投与など。しかし、救急救命士だけで救急活動は成り立ちません。尊い命を救うためには、隊員3人のチームワークが、何よりも大切になるのです。

救急隊員の願いは、一人でも多くの患者さんが助かること一。例えば心肺停止状態の場合、処置が5分遅れると生存率は半減します。このとき効果的なのは、その場にいあわせた方の応急手当です。皆さんも普通救命講習で、AED(自動体外式除細動器)使用法など、応急手当を習得してみませんか?



取材協力：香取広域市町村圏事務組合多古分署

※普通救命講習を希望される方は、消防多古分署☎76-3255へお問い合わせください。



クッキング
タイム

『サケのオレンジ色が鮮やかな一品
お弁当やおつまみにも!』

レシピ52

柿かまぼこ



■材料5人分 1,060kcal (1人分212kcal)
生サケまたは甘塩サケ 片栗粉……………大さじ1
……………5切 ぶなしめじ……………10コ
はんぺん……………大1枚 プロッコリー……………1株
砂糖……………大さじ1
塩……………小さじ1
(生サケの場合のみ)

■作り方

- ①サケは皮と小骨を取り除いて細かくたたき、はんぺんは小さく切る。
- ②①を混ぜ合わせ、砂糖、塩(生サケの場合のみ)、片栗粉を加え、すり鉢かフードプロセッサーでさらに混ぜる。
- ③②を10等分して丸め、柿のように形を作り、真ん中にぶなしめじを挿し込み、形を整える。
- ④③をアルミカップに入れ、蒸し器で10分蒸す。
- ⑤ゆでたプロッコリーとさざんかの葉などを添えて盛り付ける。

一口メモ

★白身魚のすり身が主原料のはんぺんは、低脂肪で消化吸収がよく、育ち盛りの子どもから食生活に気を使うお年寄りまで、お薦めできる食品です。

提供：保健推進員 平山敏子さん(新田)